

デジタルメディアリテラシーの夜明け
いったんとまれ「批判的思考」のススメ

デジタルメディア情報と 向き合う前に

研修のすすめかたとポイント



研修のすすめかた

パソコンを用意しパワーポイントを投影します。

必要に応じスライドと合わせ研修動画を視聴します。

ワークシートに自分の考えや話し合ったことをまとめます。

最後に参加者の感想を皆で共有します



教材は改変せずご使用ください。

教材、スライド、解説動画は、教育、人権研修等で非商用目的であれば自由にご利用いただけます。

公序良俗に反する目的での利用、商用として再配布、販売等の利用はできません。

研修のポイント



コミュニケーション編

漫画事例 <https://tottoridml.jp/example/13>

解説動画 <https://vimeo.com/921661901/2f57ef46c9>

この教材は、「個人の感情と知識経験のバイアスが情報の理解をどのように形作るのか」を、思考ルーチン（思考の流れ）をもとに考えていきます。思考ルーチンは自身の考えを整理し判断を広げます。

刑を終えて出所した人は怖い、また悪いことをするかもしれない、という感情や、映画などメディアで表現される前科のある人のイメージの刷り込みが、自分の情報の受け止めをどう変えてしまうのかを考えてもらうことを大切に研修を展開してください。

4つの思考の流れをまず1人で考え、その後グループで話し合ってもらいましょう。自分には偏見はない、だから自分には関係がない、と考えることも差別に加担していることと同じであるかもしれません。

この事例では、差別的な発言を見てみぬふりをする人がいました。誰かが注意したり止めたりしていれば状況は変わったかもしれません。



セルフコントロール編

漫画事例 <https://tottoridml.jp/example/17>

解説動画 <https://vimeo.com/921663792/079ef3c7c8>

この教材は、「集団同調性バイアス」について考えます。「集団同調性バイアス」とは、自分には差別の意思がなくても少数派になることを恐れる心理的背景から周囲と同じ行動をとることが安全と考えしまうことをいいます。ここでは思考ルーチン（思考の流れ）をもとに考えを整理し行動する方法を検討していきます。

差別的な発言を見かけ傍観している人（バイスタンダー）が差別を止めるため行動する人（アップスタンダー）になることは簡単ではありません。周りの人に声をかける、安易に同調や拡散をしない、発信する前にいったん立ち止まる、などの行動もアップスタンダーです。

差別的な行為を見かけたとき、行動する人になるために自分にできることを、参加者で話し合ってみましょう。対処が難しいとき相談できる各種相談機関も確認しておきましょう。



情報発信編

漫画事例 <https://tottoridml.jp/example/18>

解説動画 <https://vimeo.com/921665812/2b42a18b90>

この教材は、「自分の思い込み」で判断、解釈して行動し人権侵害につながった、という事例をもとに、思い込みによる衝動的な行動をしないためにはどのような知識や意識が必要かを考えていきます。

研修では5つの質問をもとに考えます。この5つの質問はメディアを批判的に見るための重要な視点です。5つの質問は、まず1人で考え、その後グループで話し合ってもらいましょう。

無意識の思い込み（偏見）を払拭するためには、知識が必要です。ファクトチェック（情報の真偽を確かめる）も大切ですが、今後情報の真偽を確かめることはどんどん難しくなります。自分だけで判断せず、周りの意見を聞き、根拠を確かめることが難しい情報は投稿、拡散しない、などの対処のしかたを確認しておきましょう。人権学習などに参加し日頃から人権問題に関心を持つことも大切であることを伝えましょう。